

氏 名	にしむらゆみこ 西村由美子
学位(専攻分野)	博 士 (社会健康医学)
学 位 記 番 号	社 医 博 第 20 号
学位授与の日付	平 成 20 年 1 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	医 学 研 究 科 社 会 健 康 医 学 系 専 攻
学 位 論 文 題 目	Sexual behaviors and their correlates among young people in Mauritius: a cross-sectional study (モーリシャスの若者の性行動とその関連要因：横断研究)
論文調査委員	(主 査) 教 授 小 泉 昭 夫 教 授 今 中 雄 一 教 授 松 林 公 蔵

論 文 内 容 の 要 旨

背景 モーリシャスは、マダガスカルから約 900km 東のインド洋に位置する南部アフリカの島国である。人口約 120 万人の同国における HIV 流行状況はあまり知られていないが、2002 年末時点での HIV/AIDS 報告数は 374 件で、そのうち 70% が性的接触による感染である。献血者および妊婦の HIV 抗体陽性率から推計される一般集団の HIV 感染率は 1%未満で、サハラ以南アフリカで最も低水準の国に属するが、2000 年以降、報告数は毎年倍増しており、今後の流行拡大、とりわけ青少年における流行拡大が危惧されている。本研究は、同国における国家エイズ対策プログラムに資する情報を得るために、15 歳から 24 歳の若者の性行動とそれに関連する社会的諸要因を分析することを目的として同国保健省と共同で実施した。

方法 モーリシャス本島に住む 15～24 歳の未婚男女を対象とし、2 段階クラスターサンプリングによって確率的に抽出した対象者 1200 名に対し、構造化質問票を用いた個別面接調査を実施した。回答率は 95%であった。質問票は、対象者の言語・文化的背景を考慮して、focus group discussion、専門家との協議、back translation、予備テストを経て開発した。質問票の信頼性と妥当性は、test-retest 法 (κ 係数)、Chronbach の α 、random response 法によって確認した。データ収集は研修を受けた 50 名の調査員と、5 名の監督者によって 2003 年 1 月に実施した。集められたデータは、統計ソフト SPSS Complex Samples 及び SUDAAN を用いてクラスター効果を調整した分析を行った。

結果 回答者の平均年齢は男性 19.2 歳、女性 18.6 歳、就学中の者は、男性 41%、女性 49%、就労経験者は男性 65%、女性 43%で、宗教は、男女ともほぼヒンドゥー 55%、イスラム 20%、キリスト 25%であった。回答者のうち、性経験者は、男性 31%、女性 10%で、性経験者のうち男性 51%、女性 71%が最も最近の性交渉が無防備であったと回答した。多重ロジスティック回帰分析により、男性では、就労経験と大麻使用、女性では、就学中でないことと飲酒経験、そして男女ともに、キリスト教であることとナイトクラブでの遊興経験が、性経験があることと有意な関連 ($P<0.05$ 、両側)を示した。一方、最も最近の性交渉が無防備であったことに対しては、初交が無防備であったこと、エイズ予防関連 NGO の活動への認知不足が、有意な関連を示した。

考察 15-24 歳の未婚者において、男性 31%、女性 10%という性経験率は、他のアフリカ諸国と比べて低く、モーリシャスが低い HIV 感染率を維持してきた要因の一つとも考えられた。しかし、性経験を有する若者における無防備な性行動の頻度は高く、今後の流行抑制のためには、重点化された対策の必要性が示唆された。本研究では、同国の若者の性行動に関わる社会的要因が初めて明らかとなったが、それにより、重点化された対策としては、就学率上昇という長期対策と学校での予防教育以外に、①エイズ予防関連 NGO の活動や政府によるアウトリーチプログラムの強化による学校外でのプログラムの促進、②若者に人気の高い場所やメディアを利用した対策の実施、③宗教的指導者を巻き込んだ対策の追求など、3 つの

側面からの対策が有効である可能性が示唆された。

以上、本研究より、モーリシャスの若者における性行動の詳細な記述と社会的関連要因の分析を行い、同国の今後の対策に資する情報を示すことができた。

論文審査の結果の要旨

アフリカで例外的に流行を免れてきたモーリシャスでも近年 HIV 感染が急増し始め、若者への流行拡大が懸念されている。本研究は、国家エイズ対策策定に資するために、未婚男女の性行動と、関連する社会要因の分析を目的として同国保健省と共同で実施された。

2 段階層化サンプリングにより確率的に抽出した 15-24 才の未婚男女 1200 名に対し、国際標準質問票を基に開発した質問票による面接調査を行い、95%の回収率を得た。質問票には高い信頼性と妥当性が確認され、クラスター性を考慮した統計解析が行われた。

回答者中性経験者は男 31%、女 10%とアフリカ諸国中で低率であることが確認されたが、直近の性行動が無防備だった者の割合は男 51%、女 71%と、リスク行動が高率であることが判明した。多重ロジスティック回帰分析により、性経験には、男性では就労経験と大麻使用、女性では非就学と飲酒経験、そして男女共に、宗教（キリスト教）と夜間の遊興経験が、無防備な性行動には、初交が無防備であったことと NGO が行うエイズ予防活動への曝露の欠如が有意な関連を示した。

本研究は、性行動に関する同国最初の分析疫学的研究であり、就学率向上や学校での予防教育以外に①NGO による予防活動の支援促進、②若者が集まりやすい場所での対策、③宗教者を巻き込んだ対策など、新たな側面からの対策が有効である可能性を示唆した。

したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値のあるものと認める。

なお本学位授与申請者は、平成 19 年 12 月 4 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。